

令和5年度訪問型家庭教育支援推進事業 第1回専門講座

1. 日 時 令和5年5月30日（火） 9時45分から正午まで
2. 場 所 日高町農村環境改善センター
3. 参加者 参加者70名
4. 内 容

◆講演及びミニシンポジウム

「今、なぜ家庭教育支援？～つながることの大切さ～」

講師及びミニシンポジウムアドバイザー

湯浅町家庭教育支援チーム「とらいあんぐる」リーダー 上田 さとみ 氏

ミニシンポジウムパネリスト

日高川町家庭教育支援チーム「ほっと」リーダー 尾崎 久美 氏

◆講 演

- 1) 「とらいあんぐる」の設立～家庭とのつながり～

↓
教育格差・所得格差、核家族化・単身家庭の増加
↓
情報化社会におけるコミュニケーションリスク等
↓
子育て家庭の孤立化 = 親が自分から SOS を出せない



本当に支援が必要な家庭へのアウトリーチ型支援が必要

SSW がチームリーダーとなり、家庭教育支援チームを設立

0歳から義務教育終了までの子供をもつ保護者を対象にした町内全戸家庭訪問



- 2) 「とらいあんぐる」の取組～地域とのつながり～

↓
家庭教育情報誌…「すまいる2」「Baby すまいる」「すまいる」の配布
↓
親子参加型行事…キッズマネー教室、バルーンアート、万華鏡作り、
親子料理教室、和菓子作り等の開催
↓
学習講座…「収納術」講座、エコバッグづくり、スクラップブック作り、
夏休み工作教室、ACT すこやか子育て講座等の開催

「つながろう湯浅！」を合言葉にした、人と人がつながる家庭教育支援の取組

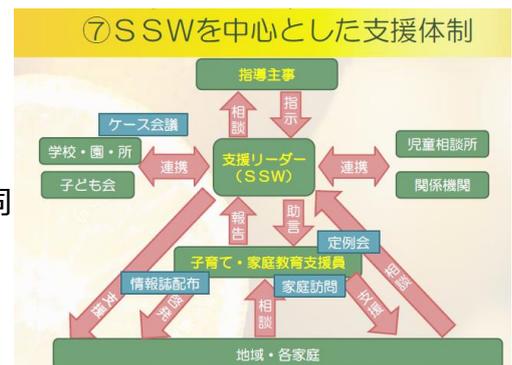
- 3) 「とらいあんぐる」の取組

～学校等関係機関とのつながり～

支援方針の共有

↓
学校等と必要な情報共有を行うことにより、同じ方向性を持ち子供や保護者への支援を行う

「つながる」支援から「つなげる」支援へ



4) 「とらいあんぐる」の取組を通して



全戸訪問による成果

問題の早期発見・対応、継続的な支援・見守りの有効性
保護者の安心感（いつでも相談できる）と不信感の解消
（学校等へのクレーム減少）

地域のかと家庭教育支援の3つのキーワード

いつでも・どこでも・いつまでも

気づく・見守る・つなげる

◆ミニシンポジウム

日高町の橋谷社会教育主事、居馬指導主事もパネリストとなり、

♣講演の感想

♡日高川町が「ほっと」を立ち上げたきっかけ

♣家庭教育支援と福祉等の訪問の違い

◇支援員に期待すること 等

について参加者も交えながら意見を交換しました。



♣社会教育主事として「つなげる」大事さを再認識した。

♣地元のかかわりがうすい部分を家庭教育支援がつないでくれるのではないかな。

♣学校へ相談しづらい保護者の困り感を家庭教育支援は現場に伝えてくれると感じた。

♣家庭教育支援は母子保健が基本ではないか。子供の全体を支えるために福祉と教育の連携は必要だと思った。

♡母子保健は保護者を妊娠期から見守っていくが、子供の就学後に途絶えてしまう。この時期を切れ目なく支援するために家庭教育支援はぴったりだと考え、すぐに福祉と教育の連携の必要性について日高川町の教育長に協議した。また、日高川町の社会教育委員が県主催の家庭教育支援シンポジウムに出席したこともあり、町全体で事業に取り組む機運が高まった。



♡「ほっと」の雰囲気はとても良いしチーム会議においても意見を出しやすい。「ほっと」の支援員として、訪問時には保護者が話し出してくれるのをとにかく待つ。

♣家庭教育支援の訪問は地域の全ての保護者を対象とし、支援員による傾聴と共感にもとづく寄り添い支援であり、福祉における訪問は主に困り感のある高齢者や児童等への支援であるが、民生委員と家庭教育支援員の両方の活動をする方もいる。

♣民生委員であれば地域のことをよく知っているため、支援員としても適任だと思う。

◇家庭訪問をしていて「この人は！」と感じた保護者を支援チームに招き入れることもある。支援員に必要なのは専門性でなく素人性。専門性を発揮するのはチームリーダー

一の役割である。

◇今回のような講座や研修会で学び、スキルアップすることも支援員に期待したい。

5. アンケート（回収68名）

①参加者内訳

家庭教育支援関係者…	10名	学校職員	…	3名	
市町村行政職員	…	14名	学校運営協議会委員…	8名	
福祉関係職員	…	2名	公民館職員	…	2名
保健師	…	3名	民生・児童委員	…	10名
地域で子供に関わる活動をしている方				…	5名
その他（地域の方、保育所関係者、母子保健推進委員、社会教育委員、助産師、町議会議員）				…	11名

②参加者の感想（一部抜粋）

◎講演

- ・聞く内容が初めてであり、有意義な講演でした。今年度4月から始めたかつらぎ町初の「子ども食堂」が役立つのではと感じました。「地域の子供は地域で育てる」を合言葉に同じような支援を地域社会・行政と一緒に活動するヒントを得られました。
- ・とにかく素晴らしい取組だと思った。SSWが中心にしっかりすわっていて、支援員も安心して活動できると思った。大切なこと、地域のために貢献したいと思う。日高町でも根づいていくように、協力していきたいと思う。上田さんのような人材がほしい！地域の課題にどう取り組んでいくのか、チーム全体で把握した上で前向きに進めることが大切だと思った。
- ・子供や保護者と「どうつながるか」ということがいつの時もどこでも一番大切なことで、そのつながりがあってこそ初めて支援が有効に働くのではないのでしょうか。その関係性をどう築くのか、あせらずゆっくり機会をつくって待つことが大切でしょうね！
- ・私の住む町でも地域力の低下が目立っています。子ども会の閉会も多くなり、地域で子育てする力が弱っているように思っていて、今日の上田先生のお話を聞かせていただく中で、激しく同意・共感できる内容が多く、私たちの町でも必要な支援だと思いました。連携にもトラブルを抱えている学校や学年もよくあり、学校と地域のパイプ役が必要なのではと思っていたので、上田先生の話は大変明るい希望の光となりました。
- ・幼児教育が最も大切だと感じています。未来の子供たちが命の大切さ、思いやり、自己肯定力を身につけて将来豊かな心で一生を送れるように、皆で支えていくことの大切さを実行されているんだと強く共感でき、素晴らしいと感じました。

- ・湯浅町に娘が嫁いでいて今年8月に出産予定。より身近に感じることができ、また「とらいあんぐる」がとても強力な助け舟になってくれるようで、必死に聴きました。一番心に残ったのは「支援員のエゴにならないように、ただ話を聞いて一」というところでした。現状維持でよい、という話も気持ちがスッと楽になりました。始めるとつながる。何もしなければ始まらない。一人のおばちゃんとして、無理せずに続けていくことが務めだと思えます。
- ・学校だけで解決できない話、知らない案件、山ほどあると思えます。先生方もかなりしんどいと思えます。「つながる」ことでよりよい社会をつくれるんだなあと思えました。家庭教育支援の必要性をととても感じます！支援員は指導型にならないように！あくまで共感・傾聴！心に響きました。

◎ミニシンポジウム

- ・日高川町の家庭教育支援チームの立ち上げがすごい。家庭とのつながり、地域のつながり、学校とのつながり…今一番欠けているところは地域住民の交流の少なさだと感じています。現在私は75歳。地域の住民の方々が昔と違って、他市町から新築で引っ越してこられた方々との考え方、いろいろ問題があるように思います。本当に「つながりの大切さ」を感じます。
- ・様々な市町村の家庭教育支援関係の方や学校関係の方の取組や活動をお聞きして、とても心を打たれました。各家庭を訪問するチームの一員として心がける事や傾聴し、寄り添う気持ちを改めて学ばせていただきました。私たちの地域における各家庭や行政や地域、学校が抱える課題について、長期に渡って少しずつ支援をしていけるように心がけていきたいと思えました。
- ・民生委員を長くやっていて年に一度学校訪問をしていますが、これまでおじゃま感があって遠慮気味でありましたが、もっと積極的にかかわっていきたいと思えます。子供のいる家庭と学校とのつながり、家庭と地域のつながり、それが一つになることが理想です。
- ・学校と、家庭・子供・親のことについて話をする時に日頃のつながりが大切だと思う—これは昔から言われていること。教員時代、朝に夕に家庭訪問し、顔を見ながら子供のことを話してきました。早朝起こした家庭訪問、昼は弁当持参できないのでおにぎり持って行って与える、放課後学習指導…。こんなことができた現役時代（30年近く前）が懐かしい。とにかく人と人はどれだけ誠意をもって話し合えるか、信頼関係ができればずっとつながる…その通りだと思えます。
- ・事例を基に「体験」をシェアされていた為、非常に役立つモノであった。それぞれの行政区に合ったモノかもしれないが、成功事例を「マネる」事で、早期に立ち上げ、できる可能性を感じた。